

平成30年度学校経営計画

新見市立新見第一中学校

◎本校のミッション（使命・存在意義）

- ◇子どもに対して・・・様々な体験を通じて、豊かな心と健やかな体を養い、確かな学力と社会の変化に対応できる力を身に付けた生徒の育成に努める。
- ◇教職員に対して・・・学校経営に対する参画意識を高く持ち、チーム力が向上する集団を目指す。また、研修を深め、学習指導や生徒指導を充実させることに力を注ぐ。
- ◇保護者に対して・・・日ごろから教職員との連携を密にし、教育活動や教育課題を伝えることで、お互いの信頼関係を築き、共通の目標に立って生徒の教育に努める。
- ◇地域に対して・・・開かれた学校づくりや情報発信により、学校教育に対する理解を得ながら、地域のリソースを有効に活用する。

◎内外の環境分析（強み・弱み）

◆	内 部 環 境	生 徒 ・素直で明るく、ほとんどの生徒が学校は楽しいと感じている。 ・概ね、基礎的・基本的な学力が身に付いている。 ・落ち着いた授業規律が身に付いており、主体的に活動しようとする雰囲気がある。 ・思いや考えをまとめ、伝え合い、自分の言葉で表現する生徒が増えた。 ・複数集団のよさを生かした活動が定着しており、リーダーが育っている。 ・運動や部活動に親しむ習慣が身に付いており、体力・運動能力が高い。	・生活リズムや家庭学習の習慣が定着していない生徒がいる。 ・人権感覚に乏しい言動がある。 ・多くの生徒がSNSを利用している実態があり、家庭と連携して情報モラルを身に付けさせることが求められる。 ・体験活動の不足により、社会性や豊かな情操が育ちにくい環境がある。 ・不登校生徒について、改善の方向にあるが、課題が残っている。
	保 護 者	・教育熱心で、学校行事への参加率は高い。 ・学校教育に対して協力的であり、PTA活動に主体的に取り組み、活性化を進めていく気運がある。	・学校教育に対して、多様な価値観を持っている保護者が一部見られる。 ・小規模小学校からの入学において、入学後の学校生活に不安を抱えている保護者がいる。
	教 職 員	・教師集団は熱心でまとまりがよく、協働する教職員になっている。 ・常に自己研鑽に励む意欲と実践力を有している。 ・ICT機器を有効に活用する教師が多く、先行的教育を推進していく能力を有している。	・各立場からの情報提供及び情報共有を一層充実し、経験を生かしつつ柔軟に発想し、実態に応じた改善に努める。 ・カリキュラム・マネジメントの観点に立ち、OJTを通した若手人材やネクストリーダーの育成が急務である。 ・地域や保護者との連携の重要性を認識し、開かれた学校づくりを推進していく意識を持つことが求められる。
	施 設	・教育行政は施設整備に協力的である。 ・エアコンが完全整備され、教育環境が充実した。	・中長期的視野に立ち、節約に努めるなど、諸経費を適正に執行する。 ・突然の非常変災に対応する安全対策として、生きて働く危機管理マニュアルの整備が必要である。
◆	外 部 環 境	・豊かな自然環境と保幼小中高大特の教育環境や諸文化・施設に恵まれ、人情味あふれる地域の協力が得られやすい。高校生等も学習に活用できている。 ・地域の中心部に位置し、伝統ある学校という思いが強く、常に注目を浴びる存在である。 ・学校運営協議会を通して情報共有をし、社会的自立を目指した子どもを育てようとする気運がある。 ・少子化に伴う高校再編の問題に対し、地域の関心が高まっている。	・新見市の人口減少とともに、生徒数が減少している。 ・統合に伴うバス通学生徒が2割を占めており、緊密な連携が求められる。 ・自転車通学の生徒が多く、安全意識の高揚に関して課題がある。 ・地域ボランティアの高齢化が進んでおり、支援分野に偏りがある。

◎ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（将来像・目指す姿）

1 学校教育目標

『はつらつと心豊かにたくましく生きる力の育成』

2 校訓

『自律・協力』

3 目指す学校像

- 生徒にとって「個性や能力が伸ばせる」学校
- 職員にとって「生徒とともに成長できる」学校
- 保護者・地域にとって「信頼される」学校

4 目指す生徒像

- 進んで学習し、深く考える生徒
- 思いやりを持ち、共に生きようとする生徒
- 心身を鍛え、何事も最後までやり抜く生徒

5 目指す教師像

- 子どもと向き合い、教育に情熱を持つ教師
- 日々研鑽に努め、指導力の向上に努める教師
- 家庭・地域と連携し、きめ細かく温かい教育をする教師
- 学校経営に主体的に参画し、仲間と協働する教師

○取組の重点

1 学力の向上

- (1)教師の授業力の向上
生徒の思考過程の視覚化をテーマに実施した校内研修により得た成果を基に、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行ない、質の高い授業を目指す。
- (2)思考力・判断力・表現力の育成
教科や総合的な学習の時間で、協働学習を積極的に取り入れ、I C T機器や思考ツールを活用しながら、生徒全員が学び合いながら課題に取り組む授業を実践する。
- (3)家庭学習の充実
基礎知識を習得し、学習の習慣を定着させるため、「一中型まなびノート」を継続し、学校・家庭の両面で主体的に学び、その知識を次の学習に生かそうとする態度を育成する。

2 道徳教育

- (1)道徳の教科化に向けた研究
学習指導要領改訂に向けた方向性の下、道徳の教科化等、必要な教科構成や評価の見直しについて研究する。
- (2)人権意識の高揚
クライシスを高め、いじめのない集団づくりに努めるとともに、学校内外のボランティア活動に積極的に取り組ませることを通して、自己の主体的な意思による行動を促し、自尊感情を高める。

3 キャリア教育

- (1)社会の変化に対応できる力の育成
系統立てた体験学習や自己啓発の学習を充実させ、情報化やグローバル化といった社会的変化に対応し、自信を持って自分の人生を切り開いていこうとする力を育成する。
- (2)年間指導計画の整備
今ある教育活動を、キャリア教育が示す4つの基礎的・汎用的能力のフィルターで洗い出し、年間指導計画の見直しを行う。

(3)コミュニケーション能力の育成

対話や議論を通じて、自分の考えを根拠をもとに伝えとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを発展させたり思いやりを持って多様な人々と協働したりできる力を育成する。

4 特別支援教育

(1)インクルーシブ教育の視点に立ち、特別支援教育コーディネーターを中心とした、学校全体での指導体制を強化する。

(2)個別の指導計画の見直し

通常学級における個別の指導計画を作成し、生徒が辛い思いをすることがないよう、個に応じた支援体制を充実させる。

5 生徒指導

(1)自己指導能力の獲得

生徒と教師、生徒同士の相互理解を根底にすえ、生徒の自己肯定感・自己有用感や自己受容感が得られるような体験的場面を意図的に設定する。

(2)関係機関との連携

不登校等の問題行動に対して、情報連携を密にするとともに、関係機関との無支援ゼロを目指した行動連携に努める。

6 開かれた学校づくり

(1)社会に開かれた教育課程

「新見型学校運営協議会」を通して、学校評価の公表に努め、説明責任を果たすとともに、学校と地域住民・保護者を代表する委員の承認を得ながら社会に開かれた教育課程を編成する。

(2)地域資源の活用

学校支援ボランティアや保幼小中高大特との連携を通して、地域資源を生かした、創意工夫の見られる学校づくりを進める。

7 学校力向上

(1)組織的学校運営

教頭・主幹教諭を要とした学校運営に心がけ、校内チームコーディネーター・主事・主任を核として機動的に動ける教師集団づくりを目指す。

(2)協働体制の確立

各分掌の業務の見直しや分掌間の連携を強化するとともに、定期的な校内委員会を通して、情報を共有する。

(3)学校事務の効率化

事務の共同実施による学校間連携も含めて、学校事務の効率化と簡略化を図る。

(4)情報管理の徹底

策定したセキュリティー・ポリシーに従い、情報セキュリティを確保し、ICT環境の安全性と信頼性を高める。

(5)服務・労務管理

コンプライアンス研修を定期的に行い、服務事故の防止に努めるとともに、定時退庁日の設定や部活動休養日の確保など、働き方改革を推進する。

(6)人材育成

若手やミドルリーダー・ネクストリーダーの養成を目指した人材育成に心がけ、カリキュラム・マネジメントを進める。

8 その他

精選すべき教育活動は精選し、先行実施すべき教育活動は焦点化して実施するなど、不易と流行を見極めた取組を推進する。